

## 基本的な使用法 (Ⅲ)

### —九大大型計算機センターの利用—

大西 淑雅\*

従来、情報科学センター（以下、本センターという）の端末から九州大学大型計算機センター（以下、九大センターという）を利用するには、N1 ネットワークで接続された飯塚地区のホスト計算機（IBM 3081）のMVSを使用しなければならなかった。平成3年4月からは、それに加えて学内ネットワークからゲートウェイ（net3270i）を経由して九大センターを利用することができるようになった。これにより、新システムのX端末からはもちろん、学内のネットワークに接続されていれば、研究室の手近なパソコンやワークステーションからも九大センターを利用できる環境が整った。

本稿では、X端末から九大センター（FACOM OSIV/F4 MSP）を利用する方法について解説する。パソコン（PC9801）からの利用方法については、「広報第4号、情報科学センターで配布するPC9801用通信ソフト（kerim）の利用法」を参照されたい。ただし、九大センターへ接続できるのは、研究登録を行っている利用者のみである。

#### 1. 九大センターへの接続

まず、X端末を使って本センターのシステムにログインする。X端末の基本的な使い方については、別稿の「基本的な使用法（Ⅰ）」を参照されたい。次に、九大センターへのゲートウェイであるnet3270iにリモートログイン（rlogin）する。

```
kisaragi00[01] % rlogin net3270i
Password:          ←————— 単にリターンキーを押す
Login incorrect
login:■
```

始めの Password: に対しては単にリターンキーを押す。すると、login: が表示される。この要求に対し研究ユーザ名を入力する。研究ユーザ名については、「ユーザアカウント体系」を参照されたい。

---

\* 情報科学センター ohnishi@isci.kyutech.ac.jp

プロンプト (net3270i %) が表示されたら qdai と入力する。

```
login:ohnishi  
BE-OS 1.3  
:  
net3270i % qdai
```

← 研究ユーザ名を入力する

しばらくすると、九大センター (MSP) のプロンプト (JCET010 SYSTEM READY) が表示されるので、logon tss と入力 (九大センターのログオン) する。

```
JCET010 SYSTEM READY  
logon tss
```

すると、ENTER USERID - と表示されるので九大センター登録IDを入力し、次にパスワードを入力する。ログオンに成功すると図1のようなメッセージが表示され、九大センターへの接続が完了する。

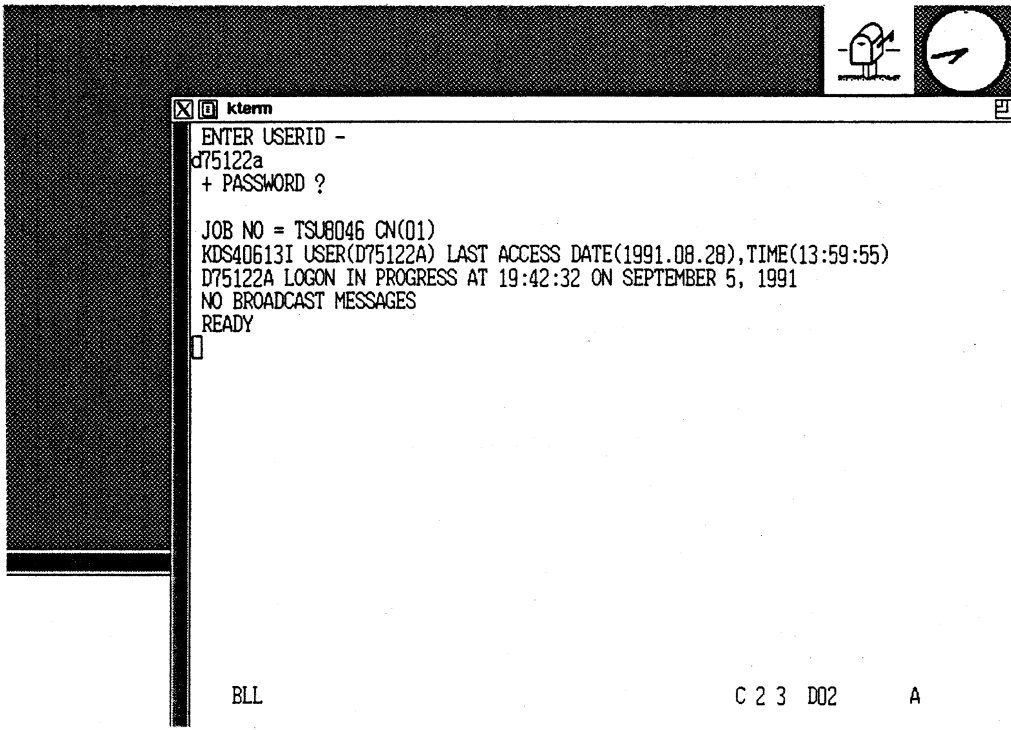


図1. 九大センターへログオン

## フルスクリーン画面の操作例 (FLIST)

九大センターの使用可能なコマンドなどは、九大センター発行の各種利用の手引（基本編，TSS編，ネットワーク編，センター開発コマンド編など）を参照されたい。ここでは，FLIST 画面下でのコマンド実行を試みる。

```
READY
flist
```

```
====>
---- FLIST MENU ---- V20/L11 -- PREFIX(D75122A) - 91/09/05 - ID(F1) -- 1/ 11
NAME TYPE ORG INPUT FIELD RF LRECL BLKSZ EX SPACE % CREATE VOLUME
BITNET.D J4382 PS  V 110 3120 1 47 ** 890609 PUB126
BITNET.D J1098 PS F 80 3120 1 47 ** 900820 PUB146
MEL FORT77 PS F 80 2960 1 47 ** 900810 PUB110
MELCOM TRANS PS F 80 2960 1 47 ** 900810 PUB101
PSCOPY FORT77 PS F 80 2960 1 47 ** 900810 PUB103
SOURCE FORT77 PS F 80 2960 1 47 ** 890705 PUB109
TEST DATA PS F 80 3120 1 47 ** 890630 PUB113
TEST FORT77 PS F 80 2960 1 47 ** 900707 PUB144
TEST2 FORT77 PS F 80 2960 1 47 ** 890707 PUB141
TSO DATA PS F 80 3120 1 47 ** 890605 PUB129
TSS DATA PS F 80 3120 1 47 ** 890605 PUB103
** END **

DISP=>PF6, FRWD=>PF8, BACK=>PF7, REPF=>PF5, INCF=>PF9, SORT=>PF4, SWAP=>PF2, TERM=>PF3
BLL C 2 3 DQ2 A
```

図2. FLIST 実行時の画面

画面の操作は専用フルスクリーン端末 (F6650) となんら変わりはない。カーソル移動キー (→←↑↓) やファンクションキー (PF1~PF12) も正常に動作する。ただし，カーソル改行には Ctrl-j を使用し，入力の終わりには改行キーを使用する。

たとえば，図2の SOURCE FORT77 をエディットする場合は，カーソルを移動しエディタを起動するコマンド E を入力するとよい。

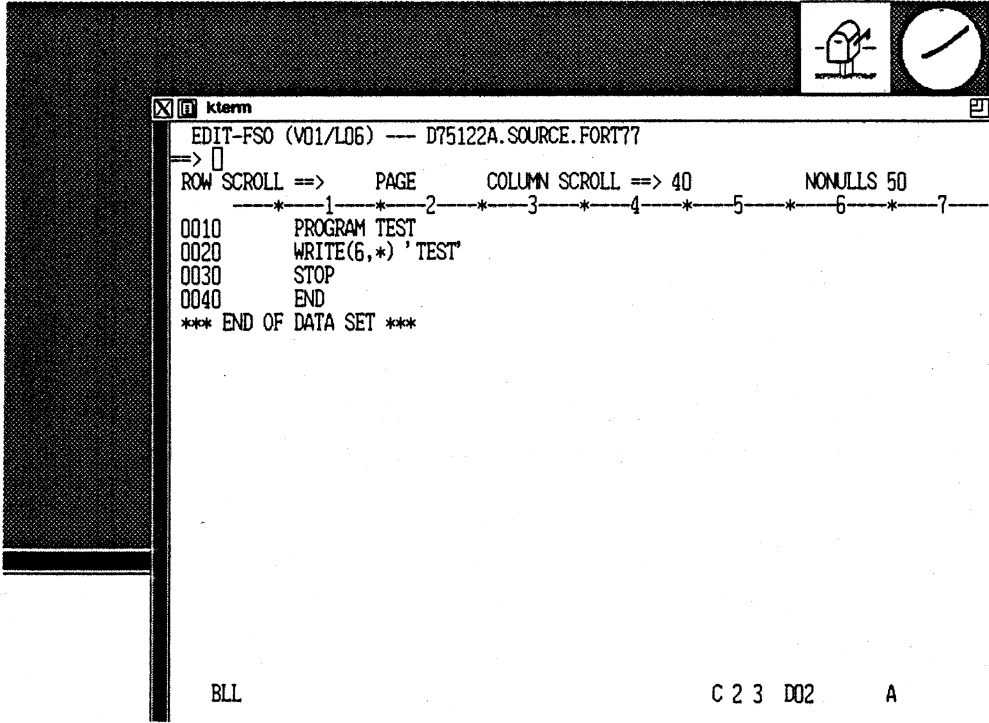


図3. エディタを起動したところ

元の FLIST 画面に戻るには END を入力する。次にこのプログラムを RUN コマンドで実行させると、次のような実行結果が表示される。

```

FORTRAN 77 COMPILER ENTERED
END OF COMPILATION
TEST
END OF GO, SEVERITY CODE=00
*** █

```

← 実行結果

\*\*\* の状態でリターンキーを押すと元の FLIST 画面に戻る。FLIST を終了するには、PF3 を押す。

## 終了処理

まず、LOGOFF と入力して九大センターとのセッションを切る。すると、九大センターのプロンプト (JCET010 SYSTEM READY) が表示される。

```
READY  
logoff
```

ここで、もう一度九大センターに接続したい場合は、再度 LOGON TSS と入力すればよい。完全に接続を切る場合は、<Esc> を押して exit とタイプする (改行キーは押さなくてよい)。すると、net3270i との接続が自動的に切れて、はじめの状態に戻る。

```
Connection closed.  
kisaragi00[02] % █
```

さらに、X 端末の使用を止める場合は、「基本的な使用法 (I)」に記述しているようにルートウィンドウ上でのマウス操作によって行う。

## 2. 九大センターとの間のファイル転送。

ワークステーション間のファイル転送は、通常、ftp コマンドを使って行われるが、九大センター (MSP) でもこの ftp 機能を公開する予定 (平成4年4月頃) とのこと。九大センターでの環境が整った場合、次のような方法 (変更の可能性あり) でファイル転送できることになる。

### 九大センターとの接続 (ftp)

まず、X 端末を使って本センターのシステムにログインする。X 端末の基本的な使い方については、別稿の「基本的な使用法 (I)」を参照されたい。次に、ftp コマンドを使って九大センターへ接続する。

以下にその様子を示すが、出力される応答メッセージは実際に公開されるものと異なる恐れがあるので注意されたい。

```
kisaragi00[03] % ftp kyu-msp
Connected to kyu-msp
220 Service ready for new user
Name (kyu-msp:ohnishi): d75122a      ←九大センター I D
Password (kyu-msp:d75122a):xxxxxxxx   ←パスワード
331 User Name okay. need password
230 User logged in, proceed
ftp> █
```

九大センターの I D とパスワードを正しく入力すると、接続に成功しプロンプト (ftp>) が表示される。なお、九大センターの I D をタイプミスした場合は、user コマンドを使って I D を入力やり直さなければならない。

```
ftp>user d75122a
```

### 九大センターから受け取る (get)

九大センターのファイルを受け取るには、get コマンドを使用する。get コマンドの 1 番目のオペランド (d75122a.test1.fort) は九大センターのデータセット名であり、2 番目のオペランド (test1.f) は受け取るファイル名の指定である。

```
ftp> get d75122a.test1.fort test1.f
200 Command oksy
150 File status okay; about to open data connection
226 Closing data connection;
9558 bytes received in 0.03 seconds(311.13 Kbytes/s)
ftp> █
```

### 九大センターへ送る (put)

九大センターへ送ることができるファイルは、空行 (CR/LF のみの行) がないファイルのみである、また、put コマンドを実行させる前に、九大センター側で同名のデータセットを必ずあらかじめ可変長で作成し、RACF の一般アクセス権を UPDATE にしておかなければならない。九大センター側のデータセット名を A.A.TEXT とする場合、具体的には次のようにするとよい。

```
READY
  E A.A.TEXT
000010
  END S
READY
  ALTDSD A.A.TEXT UACC(UPDATE)
READY
```

次に、put コマンドを使用しファイルを送る。ただし、1 番目のオペランド (ex.c) は送りたいファイル名であり、2 番目のオペランド (d75122a.a.a.text) は九大センター側のデータセット名である。

```
ftp> put ex.c d75122a.a.a.text
200 Command oksy
150 File status okay; about to open data connection
226 Closing data connection;
723 bytes received in 0.02 seconds(35.30 Kbytes/s)
ftp> █
```

### 終了処理

ファイル転送が終了したら、quit コマンドで ftp を終了する。

```
ftp> quit
221 Service closing TELNET connection
kisaragi00[04] % █
```